2026（令和８）年度

小　論　文

10：00 ～ 11：30

教養学部

地域社会学科

学校推薦型選抜（一般）

注　意　事　項

1. 合図があるまで，この冊子を開いてはいけません。
2. 合図があったら，受験番号を解答用紙の指定欄に記入しなさい。
3. この冊子は１～７ページまであります。落丁，乱丁，印刷不鮮明，汚れの箇所を見出した場合は，すみやかに申し出なさい。
4. 解答用紙は２枚あります。１枚は清書用，もう１枚は下書き用です。提出は清書用１枚だけです。
5. 解答は必ず解答用紙の指定欄に**横書き**で書きなさい。
6. 試験終了の合図があったら，筆記用具をただちに置いてください。
7. この冊子と下書き用の解答用紙は，持ち帰ってさしつかえありません。

設問　以下の**【課題文】**を読んで，あとの問いに答えなさい。なお，問いで指定された字数はいずれも句読点を含む字数である。

【課題文】

経済学は，その創成期から現代にいたるまで，一国が経済的に発展することを，国内における経済的富が蓄積されることであると捉えて，それを社会的善の最も重要な達成目標としてきた。国内で生産された財・サービスの市場価値の総和を表す国内総生産(GDP)は，このような社会的善を表す代表的な評価指標である。そして，①市場競争という「見えざる手」によって，意図せざる仕方で，利己心こそが経済発展を導くという，一見逆説的な考え方が様々に検証されてきた。

市民は，最低限のマナーを備えてさえいれば，利己的動機だけで最良の社会的善を導くことができる。道徳的，社会的大義を追求するような善行は，社会的善にとってマイナスになりかねない。

今から300年ほど昔，オランダ生まれの医者バーナード・デ・マンデヴィルは「蜂の寓話――私悪すなわち公益」を出版して，個人の利己的な行動が意図せずに社会全体の経済的豊かさをもたらすという考え方を，初めて明確に示した。贅沢や虚栄心といった個人の悪徳が実は経済活動を刺激し，結果として社会的富を増大させる。善行が社会に利益をもたらすわけではない。マンデヴィルのこの考え方は，後の経済学，特に経済学の父とされるアダム・スミスによる見えざる手の概念に多大な影響を与えることになる。

スミスは，個人が利己的利益を追求することが，市場競争を通じて，まるで見えざる手に導かれるかのように，経済的富の増大に貢献すると論じた。その一方で，経済的富とは別の社会的目的，例えば社会福祉や公平性に対しては，利己心があまり貢献できないことも認識されていた。スミスは国家の役割をそこに位置付けようとしたが，残念ながら，深い洞察と広範囲の意識的な社会貢献の必要性を認識するには至らなかった。

スミスは，利己心の中にもいくばくかの道徳があるために，相手と衝突せずに取引を円滑に進めることができるとするなど，柔軟な視点も示していた。しかし，それは社会に積極的に貢献したいとする大義からはおよそかけ離れた，営利取引者の最低限

のマナーに過ぎない。経済活動が環境に及ぼす影響に至ってはそもそも考慮の対象にすらならなかった。

スミスのように，利己心が市場を通じて社会的善に貢献すること，利己心と社会的善が倫理的に矛盾しないことを前提とするこのスタンスは，「市場至上主義イデオロギー」と称される。市場至上主義イデオロギーは，今日に至るまで経済学の高等教育に深く入り込んでいる。そのため，経済的富以外の社会貢献については副次的な扱いにされがちになる。

例えば，経済学の講義においては，市場競争が経済的に無駄のない，効率的な資源配分をもたらすことを数理的に華麗に証明して見せる。その一方で，配分の公正や平等については歯切れの悪い説明に終始する。高等教育の現場において，これらを副次的でなく説明することと，経済学の基礎についての理解を促進することをうまく両立させるのは困難にさえ感じられる。

〔中略〕

では，現代における最も重要な社会問題とは何か。現代社会は，地球環境の変化と市民の意識の変化に伴って，非常に多くの課題を抱える状況になっている。その主要なものは「サステナビリティ(持続可能性)」という理念に集約することができる。サステナビリティとは，環境，社会，経済の三つの側面を総合的に考慮し，未来世代にも十分な資源や環境条件を提供することを目指さなければいけないという理念である。

例えば，環境的視点から，サステナビリティは，経済活動が環境に与える影響を最小限に抑え，生態系を保護することを目指す。森林伐採，生物多様性の減少が生態系に悪影響を及ぼしている状況を何とかしなければいけない。

中でも気候変動は最も深刻な環境問題である。地球温暖化が進行し，極端な気象事象や海面上昇が問題となる。気候変動問題の解決のため，CO_2(あるいは温室効果ガス)の排出をグローバルに削減し，化石燃料に頼らない持続可能なエネルギー方式へ転換しなければならない。

社会的視点から，サステナビリティは，貧困，格差，社会的不平等を深刻な社会問題と捉えて，公平な社会を追求し，誰もが機会と福祉にアクセスできることを目指す。健康や労働条件の改善，教育の普及，食品の安全，住環境の安全，社会的包摂，人権の尊重など，生活の質の向上を目指す。

経済的視点から，サステナビリティは，鉱物資源，水，食料などの枯渇を重要課題とし，持続可能な資源管理を目指す。経済活動が未来世代にわたって持続可能であり，資源の適切な管理とともに，経済成長の健全性を，個人，企業，政府など，様々なステークホルダー(関係当事者)に求めていく。

産業革命以降，世界はこのようなサステナビリティに注意を払わず，気付きすらせずに経済的富の蓄積に邁進してきた。その結果，現代において環境や社会は大きなダメージを受けている。経済発展によって，CO_2の排出量が劇的に増加し，気候変動が深刻化してきた。このままでは近い将来において，生物種絶滅や自然災害といった不可逆で壊滅的な被害が地球規模で起こり，環境，経済，社会といった様々な側面に大きなダメージが生じてしまう。

サステナビリティが意味する現代の社会問題は，総括すると，過度の経済成長の結果，環境問題が深刻化し，それが世界市民の経済的生活水準の問題を超えて生命や尊厳をもおびやかし，未来世代に不可逆な損失を与えてしまうことをいかに回避して，文化的に豊かな生活を持続させることができるか，ということだ。利己心と見えざる手だけでは，これは解決されない。世界市民が意識的にこの解決に取り組まなければいけない。世界市民が未来世代を心配し，サステナビリティの大義を持ってこの問題に深く関与しなければいけない。

サステナビリティは，世界市民に意識的な社会貢献をすることを強く求めている。このことは，見えざる手による経済発展とは対極にある。経済的富の無思慮な蓄積の行く末は，未来世代に不可逆で壊滅的なダメージを及ぼすことに他ならない。経済発展が停止するだけではない。その帰結として市民の生存や尊厳が脅かされ，自然環境が破壊され，文化的な停滞が同時に起こる。これは地域ごとの問題ではなく，世界全体をまきこむカタストロフィである。世代や地域を超え，異なる文化や社会について相互に尊重し，みんながこのグローバル・カタストロフィの回避に参加しなければいけない。

〔中略〕

サステナビリティの問題の多くは共通して「コモンズ(共有資源)」の問題と捉えることができる。② コモンズとは，複数の人々が共同で利用する資源のことで，誰もが自由にアクセスし利用できるという特性を持っている。公共の牧草地，森林，漁場などは

これに直接的に該当する。コモンズはコミュニティにとって価値があり，適切な管理の下で共有されることによって，その価値を最大限に発揮することができる。しかし，個々の利用者の利己的な利益追求が，コミュニティ全体の長期的な利益を損なうという深刻な懸念が付きまとう。

この問題は「コモンズの悲劇」と呼ばれ，生態学者ギャレット・ハーディンによって，解決の難しい社会問題として1968年に提唱された。コモンズの悲劇は，過剰利用によって，共有資源が枯渇し，最終的には誰にとっても利用できなくなるというパラドックスのことだ。コモンズの悲劇は，サステナビリティに関連する諸問題の解決がどれも容易ではないことを象徴的に捉えている。

例えば，共有の牧草地がある村を想像してほしい。各牧畜者が自分の利益のためにできるだけ多くの羊を牧草地に放つと，当初はそれぞれの利益になる。しかし，牧草地には限られた量の草しか生えておらず，過剰な数の羊によって草が過剰に食べ尽くされると，牧草地は荒れ果て，最終的には誰も羊を飼えなくなる。

〔中略〕

サステナビリティにおけるコモンズの悲劇は，環境問題に限るものではない。社会的側面においても，公共の場，文化的遺産，オンライン空間など，共有されるべき価値やサービスの多くはみなコモンズと捉えることができる。これらは，社会の構成員が自由にアクセスし，利用し，享受することができる資源だが，過剰利用や不適切な管理によって質が劣化するからだ。サステナビリティの経済的側面においても，金融市場の安定性や公共インフラは，共有されるべき資源であり，適切な管理と規制が不可欠になる。これらの資源の乱用や不公平なアクセスは，経済システム全体の持続可能性に悪影響を及ぼすことになる。これらの領域においてコモンズの考え方を適用することは，サステナビリティの諸問題をより広い視野で捉え，統合的な解決策を模索する上で不可欠である。

実際，サステナビリティの諸問題のほとんどはコモンズの悲劇になぞらえることができる。③コモンズの悲劇を包含する，より広い範囲を扱う社会的ジレンマである「フリーライダー問題」と称されるインセンティブの欠如が，サステナビリティを阻む根本要因になっているからである。フリーライダー問題は，ある個人または団体が，他者が負担するコストや努力にただ乗り（フリーライド）して，他者による社会貢献を無

償で享受しようとする状況を指す。結果として，個人や団体は，社会問題の解決に自ら進んで貢献するインセンティブを失ってしまう。

例えば，公共放送の資金調達は，フリーライダー問題の典型例になる。公共放送が提供するコンテンツは，誰もが無料でアクセスできるならば，人々は利己的である限り，寄付や支払いをする動機を感じにくくなる。しかし，十分な資金がなければ，そのようなコンテンツは提供されなくなる。ここで，多くの人が利益を享受しながらも，コストの負担から逃れようとするフリーライダー行動が問題となる。この論理はコモンズの維持管理を他人任せにする論理と同じである。

同様に，ジェンダー平等，良質な教育，良い仕事と経済成長など，一見したところコモンズとは関係のなさそうなSDGsの諸目標も，深く理解すると，フリーライダー問題として認識することができる。

〔中略〕

ノーベル経済学賞を受賞した政治学者エリノア・オストロムは，アルプス地方の牧草地や日本の棚田の共同利用など，地域コミュニティが持つ牧草地，森林，漁場といった，小中規模のコモンズについての豊富な事例を調査した。その結果，多くのコミュニティにおいてコモンズの悲劇が起きていないことを発見した。重要な点は，政府によるトップダウンではなく，主要な利害関係者(ステークホルダー)であるコミュニティ自身によってコモンズが効果的に管理されているということである。その具体的な解決方法は事例ごとにまちまちではあるものの，共通する規則性があることも見出された。

オストロムは，調査結果をもとにして，多分野にわたる協働，教育の推進，テクノロジーの活用，コミュニティの力，政策とインセンティブなどといった解決策についての指針を，8つの原則として次のようにまとめた。

1　明確な境界：コモンズと利用者の範囲を明確にして，誰が資源を利用できるのか，どの資源が管理の対象かをはっきりさせる。
2　管理の適応性：コモンズの管理ルールは，資源の特性，地域社会の文化的，社会的特性といった，地域の状況や環境の変化に適応している。
3　利用者の参加：共有資源の管理に関わる全てのステークホルダーが，管理ルールの変更に参加し，合意形成に影響を与えることができる。

4　監視：資源の利用は，利用者自身または彼らに説明責任を持つ者によって監視され，違反者は適切に認識される。

5　段階的な制裁：ルール違反者に対しては，違反の度合いに応じた段階的な制裁が適用される。

6　紛争解決：利害関係者（ステークホルダー）間の紛争は，低コストでアクセス可能な地域の方法で迅速に解決される。

7　最小限度の認識権：政府などの上位の外部機関は，資源の管理に関するコミュニティの一定程度の権利を認め，干渉しない。

8　複数層の統治組織：共有資源の管理は，最も小さいコミュニティレベルから，より大きな統合された複数の組織レベルにわたって行われる。

オストロムによる8つの原則は，適切に解釈されることによって，サステナビリティに係る様々なコモンズの悲劇（フリーライダー問題）の解決に重要な指針を提供することができる。……

オストロムは，これらの原則が成り立つ状況においては，コミュニティが本来備わっている問題解決能力を発揮し，コモンズの持続的管理システムを「自己組織化」できると考えた。コミュニティのメンバーは，外部にはわからないコミュニティの特性やニーズや文化的背景などの詳細情報を共有している。その情報を問題解決に柔軟な仕方で利用することができる。自己組織化とは，このような詳細情報を問題解決に利用するためのルールや規範を，コミュニティが自ら設定し，それに従って行動する能力のことである。オストロムの原則は，共有資源の管理が単一の解決方法に依存するものではなく，地域の状況やニーズに適応した多様なアプローチを必要とすることを踏まえている。

出典：松島斉『サステナビリティの経済哲学』（岩波書店，2024年）。出題にあたって原文の一部を改変した。

問 1　下線部①について，「市場競争という『見えざる手』によって，意図せざる仕方で，利己心こそが経済発展を導くという，一見逆説的な考え方」とあるが，これはどのようなことか。課題文の記述を踏まえた上でまとめなさい。(100 字以内)

問 2　下線部②について，「サステナビリティの問題の多くは共通して『コモンズ(共有資源)』の問題と捉えることができる」とあるが，コモンズが抱える問題とは何か。課題文の記述を踏まえた上でまとめなさい。(100 字以内)

問 3　下線部③について，「コモンズの悲劇を包含する，より広い範囲を扱う社会的ジレンマである『フリーライダー問題』と称されるインセンティブの欠如が，サステナビリティを阻む根本要因になっているからである」とあるが，筆者のいう「フリーライダー問題」とは何かをまとめなさい。その上で，自分にとって身近なフリーライダー問題を一つあげ，オストロムの原則も参考にした上で解決策を述べなさい。(600 字以内)